

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	①若者対象コース		
事業名	キャリアコンソーシアムの展開～ニートに対する就労支援事業Ⅳ～		
法人名	学校法人 武蔵野東学園		
学校名	武蔵野東技能高等専修学校		
代表者	理事長 寺田 欣司	担当者 連絡先	進路指導部長 渡辺正司 Tel 0422-54-8611
1. 事業の目的			
<p>本事業は、近年社会問題になっているニート等の学び直しの機会の充実のため、専修学校の持つ職業教育機能を活用して、特性に応じた学習機会の提供を行うことにより、職業的自立支援を推進する事業である。尚、本事業は、ニートと呼ばれる若者たちを支援している東京都三鷹市にあるNPO法人文化学習協同ネットワークと三鷹公共職業安定所が加わった3者による連携事業であり、平成18年度から実施して今年度4年目を迎えた。</p> <p>本事業では、あらゆる職業に就く上でも必要不可欠なパソコン操作技術の習得を目指す（主にワード、エクセル、パワーポイント、会計ソフトの活用。それに伴う検定資格取得を目指す。）と共に本校に通うことで生活の安定を図り、さらには生活全般の見直しを図る中で、人間関係の構築を図り、当たり前な社会生活へ移行できるような自分作りができるよう支援講座を展開した。具体的数字としては、出席率90%以上、検定試験合格率100%、受講者満足度は75%を設定した。</p> <p>さらに、受講者には、受講中から三鷹公共職業安定所とのつながりを作らせ、全員が講座修了後に就業に向けての具体的な活動が展開できるように配慮していくことに努めた。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<ul style="list-style-type: none"> ●開設講座数：2講座（パソコン講座・生活支援講座） ●総授業時間数：560時間（パソコン講座336時間、生活支援講座224時間） ●開設期間：6月9日～3月1日 ●講座内容： <ul style="list-style-type: none"> パソコン講座・・・ワード、エクセル、パワーポイント、会計ソフトの実践的活用方法の習得。学んだ証として検定資格取得を目指す。 生活支援講座・・・生活面の見直しと社会生活で必要とされる知識等の獲得。加えて必要に応じて就業体験も用意。 <p>上記の他、NPO法人・安定所・本校に自立支援アドバイザーを配置し、月4回のペースで就業及び受講に関する相談日を設けて対応した。</p>			

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

本校の受講者は、NPO法人での事業から、あるいは安定所からの紹介によるものであるため、公の募集は行っていない。毎月行われる連絡協議会（3者によるカンファレンス）にて新規受講者の受け入れを検討していく。また、定員を10名としているため、応募者が定員を超える場合には、面接を行い、特に受講する必要性の高い方を受講対象者とした。

③受講者の状況

今年度6月8日から3月1日まで実施した講座受講者数は、のべ72人、実質人数は18人であった。実質人数における内訳は、次のとおりである。

男性11人、女性7人

年齢層は、10代1人／20代13人／30代4人

いずれもNPO法人・安定所からの紹介で、受講開始時点では定職についておらず、過去引きこもり経験のある者が多い。中には、この経済状況の中でリストラや内定取り消しに遭った者や国家資格の受験に失敗した者もいた。

④受講者の意識調査等

受講修了時に受講満足度に関するアンケート調査を行った。受講者18人中15名からの回答を得た。結果は下記のとおりである。尚、回答が得られなかった3名は、中途退講者である。

大変満足：11人（73.3%） 満足：4人（26.7%） 普通：0人（0%）
不満：0人（0%） 大変不満：0人（0%）

また、上記評価の理由についての自由記述について、主なものは次のとおりであった。（高評価）

- ・ パソコンに関して、初心者であっても一から親切に教えていただけること。
- ・ 同じ境遇の仲間とコミュニケーションをとりながら楽しく過ごせること。
- ・ 自分のペースで進められるので、就職活動やアルバイトなどが並行してできること。
- ・ 自分自身、何をしてもよいのかわからず立ち往生している時にこの講座に参加することで前進することができた。
- ・ チャレンジショップでの就業体験に参加させて頂き、たくさんの人と接する中で「人と接することが好き」と再確認できたこと。
- ・ たくさんの仲間に出会えて、たくさんの先生方に出会えて本当に充実した時間を過ごすことができたこと。
- ・ パソコンスキルが上達したこと。検定資格取得ができたこと。
- ・ 人間関係に自信のなかった自分に居場所を与えてくれたこと。
- ・ 規則正しい生活をするようになったこと。
- ・ 前に進もうとする気力が湧いてきたこと。
- ・ 節目毎に面談があったので、考えながら自分の意思を確認しながら過ごすことができたこと。
- ・ ホームルームの時間に先生方が話してくれた内容から自分に向き合うことが必要だと気づかされたし、今の社会情勢をしっかりと見つめることができたこと。

（要望）

- ・ 面接やマナー研修をもっとして欲しかったこと。

- ・ テキストや課題プリントをもっと充実させて欲しい。
- ・ 期間が短かった。(12月及び1月受講開始で、修了時間数が170時間、135時間の受講者)。

⑤受講後の状況(修了者数・就職率)

受講者18人中、15人が規定の出席時間数120時間に達したために、修了証を交付した。修了者の全てが就職希望者であり、受講中から安定所への就職相談を開始し、現状就職2名、アルバイト1名、就職に向けての別プログラム参加+アルバイト2名、就職に向けての別プログラムへの移行と安定所を活用しての就職活動が9名、国家資格受験に向けて取組中が1名という状況である。受講者のほとんどが、即正社員としての就職には辿り着きにくい状況があり、安定所においてはまずはアルバイトからの取り組みを勧めるケースが多いのが現状である。

3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

当初の目標である出席率90%以上は、結果として90.5%となり達成できた。本校の講座が受講者にとっての「居場所」となり、実際生活の中で必要不可欠なものとして位置づけられたと言える。また、検定試験合格率100%に対して、結果は90.7%となった。結果数値は未達成という結果であったが、上級資格への挑戦が予想以上に増えたことが大きな収穫であった。

また、受講者満足度に関しては75%を目標数値として、修了した15名全員から満足以上(2.④受講者の意識調査等参照)の回答を得られた。就職率に関しては、本事業を実施して4年目となるが、受講修了者が即就職に結びつくには、受講者の過去の経緯からして難しい状況があった。但し、連携先の安定所への橋渡しは行えており、最低限の目標達成と、受講者のその先に対する不安感を払拭できている点は評価できると考えている。

最後に、今年度同事業実施実績のある福島県、神奈川県と合同連絡会を組織し、情報交換を行う予定であったが、残念ながら福島県の事業が採用されず、合同連絡会が実施できなかった。本校から神奈川県の実施校への視察のみにとどまった。

②事業の成果及び改善点

主な成果は、次のとおりである。

1. ワード、エクセル、パワーポイント、会計ソフトの基礎編・応用編のカリキュラムの構築。
2. 人間関係の構築。特に受講者間、担当者とのコミュニケーションの充実。
3. 受講者の生活リズムの改善及び就職に向けての意欲の向上
4. 受講者個々の目標設定、達成に向けての努力する姿勢が形成された。
5. 安定所での就職相談への移行

改善点

1. 就業体験(インターンシップ)プログラムの充実。
2. 就職に向けた面接やマナー研修の充実
3. カリキュラムに基づいたパソコン講座のテキスト・教材の充実

③次年度以降における課題・展開

講座における一連の教育プログラムについては、一応の確立ができたと言える。本事業の今後の課題は、本校の講座修了後、いかにスムーズに就職活動に結びつけていくかということにつきる。そのためにもNPO法人・安定所・本校という3者の連携をより強固なものとしていかねばならない。また、次年度以降については、貴省の関連予算関係での事業展開が難しいところから、どのようにして本事業を展開していくかが先行課題となっている。

④成果の普及

この1年間の事業報告書を作成し、全国高等専修学校協会会員校及び同事業実施校、若者支援を主とするNPO法人、東京労働局・都内ハローワーク他、計376所に配布した。また、3月1日（月）において、本校で成果報告会を開催した。この報告会には、貴省生涯学習政策局生涯学習推進課藤野公之課長様他3名の方々をお迎えして開催することができた。